



学校だより

令和3年9月1日(水)

9月号

No.6

横浜市立大豆戸小学校

TEL543-7911

大切なことを学んだ夏

校長 田副 聡



今年の夏休みはオリンピック・パラリンピックでそれぞれの国を代表して参加された選手が活躍される姿を観戦された方もいたことでしょう。2年前になります。大豆戸小学校を学校訪問した選手が東京パラリンピックに出場しました。学校訪問の時の学校だよりを紹介します。



10月25日に「オリンピック・パラリンピアンによる学校訪問事業」があり、大豆戸小にパラリンピック代表候補の「高田 千明選手」が来られました。千明選手は高田 裕士選手とご夫婦とともに陸上競技をしています。小学生の子どもをもつお母さんでもあります。

千明選手は視覚、裕士選手は聴覚に障害があり、千明選手は私たちが話したことを手話で祐士選手に伝え、祐士選手は体育館までの廊下や階段を歩くときに千明選手を誘導されていました。そして体育館では千明選手が話をして、実際の走り幅跳びやランニングを実演しました。その際には、裕士選手が手をたたいたり伴走ロープを使って一緒に走ったりしながら千明選手のサポートをしていました。千明選手は「今の目標は東京パラリンピックに出場すること」と力強く語られていました。その目標を実現するために大豆戸小学校に訪問した後、すぐに合宿先に向かい、約2週間後に行われたドバイ2019パラ陸上走り幅跳びで入賞し、「2020東京パラリンピック 日本代表に内定」が決まりました。

学校訪問の時から、高田千明選手はさらに努力を積み重ね、1年間のオリパラ延長期間を経て、8月27日の陸上女子走り幅跳び(視覚障害 T11)で5位に入賞することができました。残念ながら陸上女子100m(視覚障害 T11)は決勝に進めなかったのですが、改めて2年前に話をされていた「困難に打ち勝つため、目標に近づくために努力をする」ことの大切さを学びました。

今年の夏は大豆戸町内会のみなさんが「オンライン盆踊り大会」を企画していただきました。例年の盆踊り大会の代わりに「子どもたちの数少ない夏休みの思い出」のために計画を立ててくれました。参加している子供たちの楽しそうな顔、この顔を見るために学校も「困難に打ち勝つため、目標に近づくために努力をする」を忘れないでいたいと感じました。

各家庭におかれましては日々、子どもの健康管理をありがとうございました。夏休みの突然の延長や分散登校についてはご迷惑をおかけしますが、夏休みの間に心身ともに成長した子どもの様子が見られることがとても楽しみです。3月に飼い始めたウーパールーパーも半年間で大きくなりました。大豆戸小学校の子どもたちと同じように、日々たくましく成長を続けていることを感じる今日この頃です。学校再開にあたり、不安を抱えている児童をしっかりと受け止め、「だれもが」「安心して」学校生活が送れるよう、「心のケア」と「仲間づくり」をベースにした取組を大切にしていきます。具体的には、横浜市教育委員会が作成推奨する「学校再開スタートプログラム2021」を実施します。引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。